

Agri Note 菜園

アグリノート菜園情報

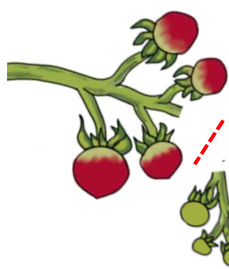
JA福井県

今年もアグリノート菜園情報をお届けします。

連休明けまでにトマトなどの果菜類を定植された方が多いと思います。連休中は気温が平年より下回る日が多かったですが、定植後の活着はよかったですでしょうか。これからの適切な肥培管理で品質のよい果実をより多く収穫しましょう。

トマトなどの一般的な仕立て方法を紹介いたしますので挑戦してみてください。

1. 大玉トマト



■仕立て方法 (例)1株1本仕立て

■わき芽かき

- 活着したら、わき芽がでてくるので小さいうちに手で取ります。

■摘果

- 1段花房や2段花房の果実は5果程度着きますがそのまま着果させてしまうと上部の生長が悪くなり、3段花房以降の着果や肥大が不良となります。形の悪いものなどを中心に摘果し1段花房は3~4果、2段花房は4~5果にします。

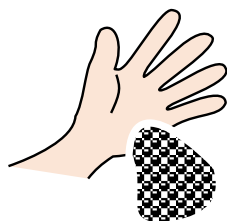
■追肥

- 1段花房の果実がピンポン玉位になったら1回目の追肥を株間に行います。その後は草勢を見ながら2週間おきにうねの肩部などに施用します。(施用量:そさい5号、15~20g/m²程度)

特に花房下のわき芽は生長が早いので早めに取り。傷口から病原菌が入り、病気が発生する。



2. ナス



■仕立て方法 (例)1株3本仕立て、1株4本仕立て

■わき芽かき

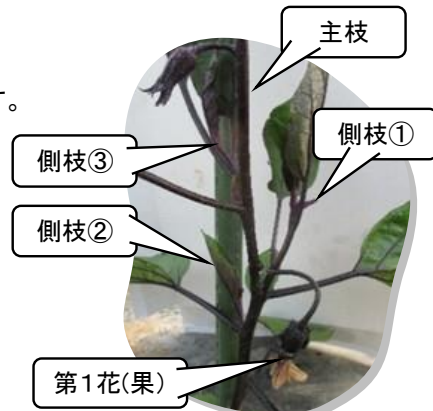
- 活着したら、本葉5枚までのわき芽は小さいうちに取ります。

■整枝

- 3本仕立ての場合、主枝と主枝の第1花の下の側枝2本(①②)または第1花の下の側枝1本(①)と上の側枝1本(③)を立てます。

■追肥

- 1番果が肥大してきたら1回目の追肥を株間に行います。その後は草勢を見ながら2週間おきにうねの肩部などに施用します。(施用量:そさい5号、20g/m²程度)



3. キュウリ



■仕立て方法 (例)親づる1本仕立て

■わき芽かき

- 親づるの株元から上の5~6節までに出てくるわき芽(子づる)や雌花は小さいうちに取ります。

■整枝(摘芯)

- 親づるはネットの上まで出てきたら摘芯します。また、親づるの摘芯後、生長点のある子づるや孫づるを3本程度伸ばして放任します。
- 子づるは10節くらいまでは葉1枚を残して摘芯し、それ以降は葉2枚を残して摘芯します。
- 孫づるは葉1~2枚を残して摘芯します。

■追肥

- 1回目の追肥は定植1ヶ月後(収穫始め)頃に株間に行います。その後は草勢を見ながら2週間おきにうねの肩部などに施用します。(施用量:そさい5号、15~20g/m²程度)

6~7節に着果させる。草勢が弱い場合は、さらに上段に着果させる。



4. 共通事項

- わき芽かきは、特に露地栽培では必ず晴天の日の午前中に行いましょう。ハサミはウイルス病伝染の恐れがあるため、できるだけ使用しない。
- 定植後本支柱やネットなどを設置していない場合は早急に設置し、枝やつるを誘引しましょう。
- 6月に入ると雨が多くなりますので、排水対策を徹底しましょう。